

提 言 書

地域交通について

～移動の自由をどうつくるか～

令和 7 年 9 月

浜田市議会 総務文教委員会

◆はじめに

浜田市における地域公共交通は、人口減少・少子高齢化に伴い、利用者は減少傾向にあり、民間路線バス運行事業者が運行するバス路線も運転手確保が難しくなっており、減便、廃止も増加傾向の状況にある。移動手段の確保、交通難民対策は喫緊の課題であり、各自治体においては、様々な地域交通形態を実施している。

本市においても、自治会輸送活動支援事業・あいのりタクシー等運行支援事業・敬老福祉乗車券交付事業といった高齢者等のニーズに応じた交通手段を確保するための移動支援や生活路線バス運行事業・予約型乗合タクシー運行事業など利用者のニーズに応じた効率的で持続可能な交通体系を構築するための各種事業を行い、地域公共交通に関する施策の充実に努められている。

これらの状況を踏まえ、総務文教委員会として、持続可能な地域公共交通体系の構築の観点から、浜田市における地域公共交通を調査研究テーマとして、下記の事項の取組提言に至った。

◆委員会としての取組

- 1 令和 6 年度に開催した地域井戸端会において「地域交通について ～移動の自由をどうつくるか～」をテーマの一つとし、全 28 会場において意見徴取を実施
- 2 地域公共交通の現状について担当課への聞き取り
- 3 「あいのりタクシー等運行支援事業」を実施している 15 団体の事務局機能を担っている各地区まちづくりセンターへ令和 6 年 7～8 月にかけてヒアリングを実施
- 4 行政視察の実施
 - (1) 令和 6 年 10 月 23 日 岡山県真庭市
 - ・ 民間企業が開発したシステムを導入し、市民ニーズに対応している「チョイそこまにわ」の運行状況等の調査
 - (2) 令和 7 年 1 月 22 日 千葉県香取市
 - ・ 公共交通再編と地域デマンド交通「かとくる」について調査
 - (3) 令和 7 年 7 月 30 日 鹿児島県鹿児島市
 - ・ 地域が主体となって取り組む互助による運送「ボランティア運送」について調査
- 5 委員会の開催 令和 6 年 4 月～令和 7 年 8 月まで 25 回

◆提 言

1 民間路線バスの再編について

【現状・課題】

民間路線バスにおいては、利用者の減少に加えて、運転手の不足から、更なるバス路線の減便や廃線が増えることが今後も予想される。

行政においても、住民の移動手段の確保のため、民間路線バス運行事業者へ財政支援を行い、その維持を図ることはやむを得ないことではあるが、行政における地域公共交通関係全般にかかる予算は増加していくことが予想される。

【提案】

民間路線バス運行事業者と行政双方の将来を見据えた協議を重ね、浜田市にとって最適な、利便性・効率性を確保した民間路線バスの再編の検討をされたい。

2 地域公共交通に関する政策について

① 生活路線バスについて

【現状・課題】

現在運行されている生活路線バスは、路線によっては、利用人数に対して大型バスでの運行が見受けられる。

効率的かつ合理的な運行を考えた場合、普通二種免許で運転できる車種による運行の方が、運転手の確保や、車両の維持経費が抑えられるといった面でメリットがある。運転手の高齢化も課題となっていることから、その解決を図ることが持続可能な地域公共交通体系の構築に資するものであると考える。

【提案】

不特定多数の乗客に対応するために大型車両による運行を行っている現状を見直し、地域の実情・利用者の状況に応じて、利用者数を事前に把握できる予約型方式のデマンド交通の導入や、車両の規格を見直す等、より効率的・効果的な運行方法を検討されたい。

② 予約型乗合タクシー事業について

【現状・課題】

区域内でのみ運行を行っている「予約型乗合タクシー事業」より、区域外の地域や生活圏に近い市外への運行が可能な「あいのりタクシー等運行支援事業」の方が、地域のニーズを捉え利用が増加傾向にあると考える。

【提案】

双方の利点を活かした新たな運行事業を構築するため、交通空白地域に限り新たな運行事業の試験的な試みを検討されたい。

また、新たな運行事業の検討の際には、ICT 技術を活用した地域公共交通システムを導入することも有効な手段であり、併せて検討されたい。

③ あいのりタクシー等運行支援事業について

【現状・課題】

あいのりタクシー等運行支援事業は、地区まちづくり推進委員会において有効に活用されており、今後も継続すべき事業であるが、中山間地域の活性化のための「まちづくり振興基金」を取り崩して財源としており、基金の残高がなくなった後の財源が不透明である。

【提案】

まちづくりの観点からも、地域課題を住民自ら解決に向けて取り組む制度として継続すべき事業であり、基金終了後の財源も検討されたい。

また、旧浜田市内のまちづくり推進委員会において、あいのりタクシー等運行支援事業を利用する委員会が少ないことを課題と捉え、旧浜田市内における地域公共交通の充実の観点から、利用しやすくなるような制度を検討されたい。

④ 敬老福祉乗車券交付事業について

【現状・課題】

中心市街地から遠く離れ生活圏が県境に近い住民に対し、必要に応じた配慮は必要であるが、利用者の偏りは事業における課題であり、幅広い方々の利用が望まれる。

【提案】

今後、増加が見込まれる免許返納を見据え、更なる地域公共交通利用促進や啓発に努めるとともに、地域の実情に応じ、低価格で誰もが利用できる運行事業の構築を目指し、全市的に最適な地域公共交通に資する事業を検討されたい。

3 市の組織体制の強化について

【現状の課題】

今後も増加が見込まれる民間路線バスの撤退、減便への対応に伴い、新たな地域交通の整備や中山間地域における重複した事業の再編等、取り組むべき課題も見受けられる。

【提案】

他の自治体においても、ICT 技術を活用したシステムを旅客運送会社へ委託し、人的負担の軽減と効率化を図り、複雑化した市民ニーズに対応している事例もある。新たな交通体系の確立を検討するには、現在の組織体制では足らず、市の組織体制の強化は必要であると考えます。新たな交通体系が確立するまでの期間を区切った組織体制の強化を検討されたい。

4 自治会輸送について

【現状・課題】

波佐、羽原、大麻地区において自治会輸送を実施されている。これらは、市内において住民自治の力により地域課題を解決する取組であり、協働のまちづくりの実践事例である。

【提案】

市内においても自治会輸送等も地域の実情に応じた交通体系であり、今後も、更なる支援を継続されたい。

総務文教委員会

委員長	芦谷英夫
副委員長	沖田真治
委員	村武まゆみ
委員	岡本正友
委員	永見利久
委員	西田清久